

令和4年
(2022年) 夏号

大津・南部の農業

●発行●

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所農産普及課
草津市草津三丁目14-75
TEL 077-567-5421~5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス
ga35@pref.shiga.lg.jp
Facebook
https://www.facebook.
com/facetoagri.o.n/
発行責任者 住谷 一樹

この印刷物は古紙パルプを配合しています

大津・南部管内の 青年農業者クラブの紹介



(写真1) 農産物マルシェで販売を行う季楽里
クラブ員



(写真2) 農産物加工について学ぶ南びわこ青
年農業者連合会クラブ員

【大津地域青年農業者クラブ季楽里 (きらり)】

大津市の青年農業者で構成されたクラブです。現在12名が在籍し、農業大学卒業生、他業種からの転職など経歴も様々で、栽培品目も米・麦・大豆から野菜まで多種多様です。

同クラブでは、20年前から大津市立木戸小学校と連携し、食農教育を行い、次世代を担う子どもたちへ農業に関心を持ってもらえるよう取り組んでいます。また、大津プリンスホテルと連携した農産物マルシェを行い(写真1)、クラブ員の農産物を多くの方に知ってもらえるよう取り組んでいます。

【南びわこ青年農業者連合会】

草津市、栗東市、守山市および野洲市の青年農業者で構成されたクラブです。現在23名が在籍し、栽培品目は米・麦・大豆、施設・露地野菜、果樹など多岐にわたります。

経営上の課題解決に取り組む“プロジェクト活動”や、先進農業経営の栽培・加工技術や販路の開拓手法を学ぶ“視察研修”(写真2)など、自分たちの経営向上のため、日々工夫しながら活動を行っています。

両クラブでは今後も新規メンバーの勧誘や新たなイベントの開催などを進め、地域農業の活性化に向けて様々な活動を行っていきます。活動に御興味のある方は大津・南部農産普及課までお問い合わせください。

製めん適性に優れた多収品種「びわほなみ」の登場!

農研機構西日本農業研究センターによって育成・品種登録された収量性と製めん性に優れた「びわほなみ」(写真左)の作付けが管内で開始されました。

本紙では新品种「びわほなみ」の特性と栽培上の注意点などについて説明します。

【特性】

早生で製粉性が優れる「中国153号」と晩生で多収と製めん性に優れる「北見81号」を交配・選抜を重ねたものが「びわほなみ」です。

●主な特性：

- ①収量性が高い
- ②稈長が短く倒伏しにくい
- ③製めん適性に優れる
- ④赤かび病に弱い
- ⑤白ふで芒が短い
- ⑥早生で播性が「I」※
- ⑦子実タンパク含有率が低下しやすい

※播性「I」の品種は、早播きすると出穂が早まり凍霜害に遭いやすくなります。



写真(左)「びわほなみ」
(右)「農林61号」

表 「びわほなみ」と「農林61号」の品種特性表

品種名	出穂期 (月 日)	成熟期 (月 日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	千粒重 (g)	収穫量 (kg/10a)	耐倒伏性	秋播性程度	赤かび病 耐病性
びわほなみ	4月6日	5月29日	78.6	7.6	554	42.1	467	多収 強	I	弱
農林61号	4月15日	6月4日	88.4	7.4	471	42.5	425	中	II	中

【実需者に求められる麦・大豆づくりに向けた指針】より抜粋

【栽培上の注意点と対策】

●栽培上の注意点

- ①子実タンパク含有率が低下しやすいこと
- ②赤かび病に弱いこと
- ③早期播種は凍霜害のリスクが高まること
などが挙げられ、特性に応じた対策が必要です。

●対策

- ①適切な時期・量の実肥施用を行い、子実タンパク含有率を向上させましょう。
- ②赤かび病対策は2回防除を必須とし、開花期に雨が続く場合には3回目の防除を行いましょう。
- ③凍霜害を避けるため、11月10日以降の播種を原則とし、従来よりも播種時期を遅らせることが必要となります。

詳しい栽培方法等につきましては当課までお問い合わせください

産地の維持・発展に向けて ～モリヤマメロン～

守山市のブランド農産物として消費者から人気の高いモリヤマメロンは、令和4年度、部会員数21人、栽培面積約3haで栽培されており、約7万個の出荷を予定しています(写真1)。

モリヤマメロンは昭和55年(1980年)に部会が発足し、平成5年(1993年)には部会員数55人、栽培面積約10haまで拡大しました。しかし、高齢化や土壌病害による生産面の不安定等を理由に、年々栽培面積・生産者数・出荷個数が減少しています。

そこで、モリヤマメロンのブランド維持に向けた新規生産者の育成を目的として、平成25年にJAや守山市が連携し、「トレーニングハウス研修制度」を開始され、今年度で10年目を迎えました。

トレーニングハウス(375㎡ 2棟)では、研修生が実際にメロンを栽培し、モリヤマメロン部会のベテラン生産者による技術指導やほ場見学、JA営農指導員や当課普及指導員による技術支援を通して、栽培技術の習得を図っています(写真2、3)。「トレーニングハウス研修制度」の利用者は、今年度で延べ22人となり、その内10人が部会に入会されました。

部会発足後40年以上が経過し、気象条件や土壌病害の発生など、栽培環境が大きく変わっています。そのような中でもモリヤマメロンというブランドを維持・発展していくために、生産者や関係機関・団体が連携し、栽培技術の伝承や新規生産者の確保・育成という課題に向き合っています。



写真1 モリヤマメロンを買い求める人で賑わう直売所



写真2 ベテラン生産者(右)による研修生(左)への技術指導の様子



写真3 収穫が近づくモリヤマメロン

新たに認定された指導農業士の紹介 西 直幸さん(守山市)

指導農業士制度とは、担い手の育成、農業振興のリーダーとして活躍していただく農業者を市長の推薦により、知事が認定する制度です。今年度は新たに1名が認定され、管内の指導農業士は総勢19名となりました。

西さんは、令和2年に株式会社Liv.N（リヴン）を設立し、水稻、麦、大豆および露地野菜を生産されています。常に新しい農業の在り方を考え、現在は自社商品の開発や直売所経営といった新たな方向性を模索されているところです。

また地域の若手農業者の良き助言者であり、JA青壮年会「絆の会」の会長や「おうみもち麦部会」、「守山矢島かぶら部会」の役員を担うなど、地域農業の発展にも尽力されています。



写真 ドローンを操縦する西氏

滋賀県立農業大学の紹介

～あなたも滋賀県立農業大学校養成科 で学んでみませんか～

- ◆**修業年限** : 2年(募集定員30名、所在地 近江八幡市安土町大中503)
- ◆**専攻コース** : 水田農業、茶、施設園芸(野菜・花き)、果樹、畜産
- ◆**応募資格** : 高等学校卒業者および令和5年3月卒業見込みの者、またはこれと同等以上の学力を有すると農業大学校長が認めた者
- ◆**願書受付期間** : 推薦 令和4年10月7日(金)～10月19日(水)まで
一般 令和4年11月25日(金)～12月6日(火)まで

※詳しくは農業大学校(0748-46-2551)
または当課までお問い合わせください。